神宮周辺にぎわい創出

地域課題探り生徒ら提案

鹿島高付属中

グループで地域の課題を調査し、解決策を提案する学習を昨年度続けていた県立鹿島高付属中（小沼浩幸校長）の2年生による発表会が18日、鹿嶋市城山の同校で開かれた。本年度履修予定の1年生に向かって、鹿島神宮周辺のにぎわい創出案や特産物の知名度アップ案などを発表した。

発表は思考、判断、表現力向上を目的に疑問を突き詰めていく「地域探求学習」の一環。

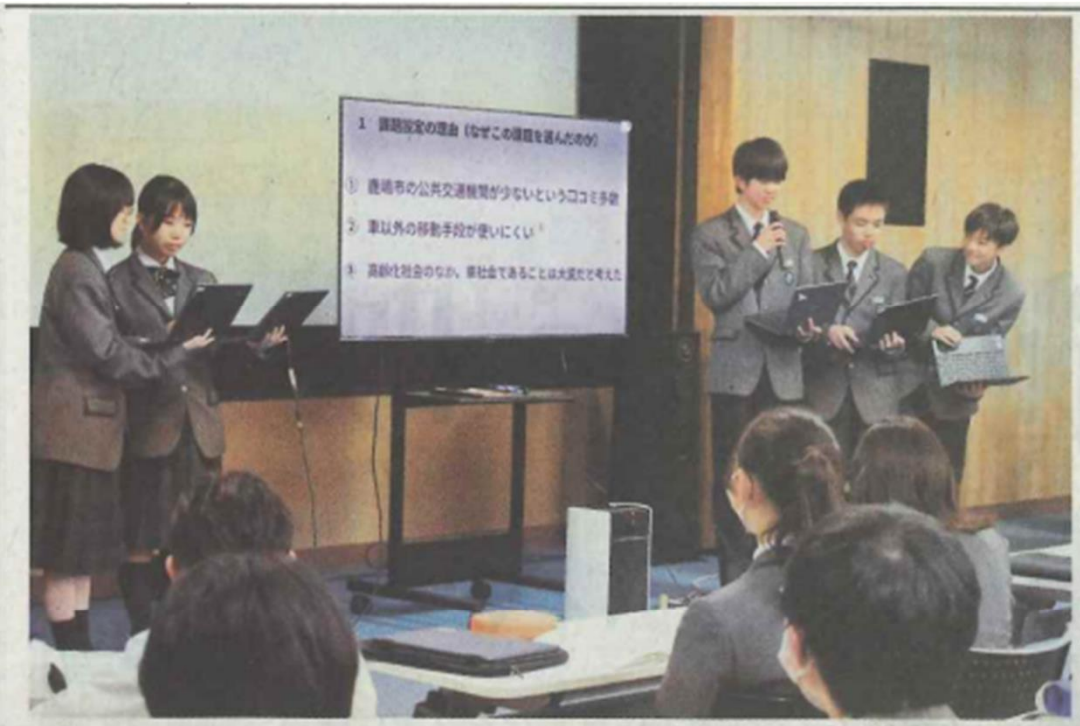
生徒たちは同神宮参道の商店街の活性化のほか、公共交通機関の認知拡大、市内に建設が検討されている新サッカースタジアム建設などの地域課題をテーマに設定。5人ずつの8グループに分かれ、フィールドワークや文献調査を行い、解決策を探ってきた。

発表ではグループごとに課題設定の目的や仮説、調査結果と成果、今後の課題などについて説明した。同神宮周辺の空き店舗活用を提案したグループは、参道ならではの魅力を伝えたいとして、鹿島灘はまぐりなどの特産物を扱う飲食店や、参拝客が立ち寄れる着物レンタル店などを紹介し、「平日でも訪れる人でにぎわう場所にしたい」と力説した。

塚原卜伝の認知拡大を目指す調査を行った2年の篠崎ふみ香さん(14)は「歴史上の人物を知るきっかけができ、新しい発見があった」と振り返った。

発表を聞いた1年の加瀬篤史さん(12)は「先輩たちの調査方法を参考に、自分たちもイメージを共有し合って学習を進めたい」と意気込んだ。

（三上山明里）



「地域探求」について発表する生徒たち＝鹿嶋市城山の鹿島高付属中

茨城新聞　2024年4月22日掲載